

愛知大学 3つのポリシー（2025年度向け）

■ 文学部 心理学科

教育研究上の目的
学則第1条（目的） 本大学は、教育基本法及び学校教育法並びに本学の設立趣意書に基づき、高い教養と専門的職能教育を施し、広く国際的視野をもって人類社会の発展に貢献しうる人材を養成することを目的とする。
学則第2条の2（学部及び学科） 心と行動の科学を定義とする心理学の基礎的な方法を学び、人間や社会における問題点を自ら発見し、実験や調査、そして臨床研究によってその解決に導くことができる能力を習得させる。これらを通じて、客観的な視点から人間や社会を眺め、深く理解して、その成果を自らの日常生活や社会生活において応用できる人材を養成する。
学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）
文学部心理学科では、学則第2条の2に示す人材の養成を目指します。教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に従い、履修規程に定められた科目区分毎の卒業必要単位数及び履修要件をすべて満たし、厳格な成績評価を経ることにより、総計124単位以上を修得した学生に対して卒業判定を行い、学位（学士（心理学））を授与します。 「卒業論文」は必修で、自分でテーマを決め、実験・調査を行い、得られたデータの分析と解釈、先行文献との比較を通して、自分なりの結論を導き出します。「卒業論文」については、論文審査と口述試験を行うことで評価します。これらを通じて、以下の能力を身につけることを教育目標と定めます。
（知識・技能） 1. 心理学に関わる専門的知識を有し、必要に応じて運用できる能力を身につけている。 2. 研究に必要なデータを得るための方法を考え、必要なだけのデータを収集・分析する能力を身につけている。
（思考力・判断力・表現力） 1. 問題を発見し、テーマを見つける能力を身につけている。 2. ものごとを自分なりに考え、新たなものを創造し表現する能力を身につけている。
（主体性・多様性・協働性） 1. 社会や文化についての素養をもち、多様性を理解しつつ、主体的に行動する能力を身につけている。 2. 他者とコミュニケーションし対話する能力を身につけている。
教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）
文学部心理学科では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた資質、能力及び知識を修得させるために、全学部共通で示す教育課程の編成・実施方針に加え、以下の内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成し、実施します。
（教育内容） 1. コミュニケーション能力、情報処理能力、基本的な思考方法や総合的な判断能力を養成するため、「外国語」「数理・情報」「自然」「社会」「人文」「総合」「スポーツ・健康」の分野による共通教養科目を設ける。 2. 1年次生の専門教育科目では、全員が履修する「文学部総合研究」により文学部の各専攻の学問の基礎に触れ、文学部全体の学問を見渡すことで、心理学を専攻する学生としての広い視野を得る。それに加えて、心理学科の導入科目として「入門講義（心理学）」及び「入門演習（心理学）」、「心理学概論」が必修となっている。また、人文社会学科各コースの「入門講義」（2科目選択可）及び「入門演習」（1科目選択可）を学部選択必修科目として設け、関心のある文学部の他の専攻の学問領域に触れる機会が提供されている。 3. 2年次以降の主要な専門教育科目として、心理学を基礎から応用に至るまで体系的に学ぶための演習などの学科必修科目と、講義などの学科選択科目を履修する。 4. 公認心理師取得希望の学生は、公認心理師の取得に必要な諸科目を履修できる。
（教育方法） 1. 講義・演習・実習等の授業形態と、少人数教育、アクティブ・ラーニング、PBLなどの多様な教育方法を組み合わせて実施することで、学術分野の特徴を活かした教育課程の展開と自発的な学修の促進を図る。
（学修成果の評価） 文学部心理学科では、本学における学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）に基づき、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示す学修目標の達成状況を把握するため、以下の方法により、検証・評価を行います。 1. 教育課程（メゾ）での評価は、学修成果アンケート、単位取得状況、学位取得率、GPA分布（年度毎、通算）、留年率、卒業論文の成果評価割合等により行う。 2. 授業科目（ミクロ）での評価は、シラバス「成績評価の方法と基準」で明示した基準に基づいて、各科目の成績評価分布、授業評価アンケートにより行う。
入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）
文学部心理学科では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示した人材を養成するために、以下のような資質、能力及び知識を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

愛知大学 3つのポリシー（2025年度向け）

1. 求める学生像 (1) [一般選抜] 高等学校の各教科、とりわけ国語、外国語、公民、数学、生物、地理歴史について基本的学力を有しており、応用、発展的内容の学習へ進む準備ができています。 [学校推薦型選抜] 高等学校段階の各教科の基本的内容について学習、理解しており、大学における教育・学習に支障なく移行、適応できる学力を有している人。 (2) 人間の様々な営みと活動について多様な興味や関心を抱いており、個、集団、地域などの観点から、あるいは過去、あるいは現在について観察、考察し、さらに未来を展望することに魅力を感じている人。また、そのための新たな、より高度な知識や分析手法を習得したいという意欲のある人。 (3) 大学において学習、習得した心理学の専門的知識、視座、研究方法と、広義のリテラシー能力、コミュニケーション能力を、将来自己の人生、職業、社会貢献などに活かしていきたいという意思を有する人。
2. 入学前までに修得すべき能力 (知識・技能) (1) 心理学を学ぶために必要な基礎的な知識とそれを運用する能力を有している。
(思考力・判断力・表現力) (1) ものごとを自ら論理的に考えるための基礎的能力を有している。 (2) 自分の意見などを発表する基礎的能力を有している。
(主体性・多様性・協働性) (1) 他者の意見などを聞き対話する基礎的能力を有している。
3. 選抜方法 (1) 一般選抜 基礎学力をバランス良く備えた入学者を選抜するために、3教科以上を課し、その結果を総合判定して合格者を決定する。 (2) 総合型選抜 出願資格に応じた入試区分を設け、出願書類、小論文、面接等により総合判定して合格者を決定する。 (3) 学校推薦型選抜 調査票（全体の学習成績の状況）、資格点、面接、学科試験により総合判定して合格者を決定する。